

## 文化活動部会

山川 政志

### 子どもに豊かな文化を手渡したい

文化活動部会では、学芸会（学習発表会）や学級文化活動などの実践報告や「手しごと」の実技講座などを行ってきました。

#### 子どもの個性を大切にした学芸会

学芸会（学習発表会）の実践報告では、小学三年の子どもたちの得意技を生かして脚色して上演した「ぞうれっしやがやってきた」。その取り組みの中で、いつもすねていた子が自分の得意技を認められて、まわりの大人や学級の子どもたちとうまく交流することができるようになったことが話されました。

中学校の演劇クラブで、教師と部員が共同して作った脚本「ヒロシマのある国で」を上演した取り組みについて報告されました。ここでも、登校を渋りがちだった主役の子どもが、みんなに励まされ自信を持って学校生活を過ごすように

なってきたことも話されました。

#### 子どもを励まし、学級を変える文化活動

また、若い教師が「うまくなかないかないな」と悩んでいたときのこと。国語の学習ということで、自分が得意だった百人一首を活用しようと思いつきました。それで国語の授業を通して学級全体で覚えたり、ゲームをしたりしたところ子どもたちも大いに興味を持ったそうです。そのことで学級の人間関係もよい方向に変わっていったことが報告されました。これは、学級で文化的な活動をすすめることの大切さを示しています。

#### 文化活動を通じて子どもの成長をすすめたい

今、学力テストの順位向上や教科の時間数の確保のかけ声の下、学級活動や特別活動、学校行事の時間が、どんどん少

なくなっています。また、新学習指導要領では、学習時間も学習内容も今までより一層増え、学校の文化活動が一層弱められようとしています。

多様な子どもたち一人ひとりが、目や耳など使い、実際に身体や手足を動かして活動することは、成長に大きく関わります。学校はそうした交流や成長する場として役割を果たしてきました。それだけに、学校で、学級で豊かな文化活動をすすめられることが望まれています。こうした中で、文化活動部会には演劇教育のサークルで中心になって活躍している仲間や、「子どもと生きる」の「つくって遊ぼう」コーナー執筆者の方なども参加しています。私たちは、「子どもに豊かな文化を手渡したい」と願い、これから公開部会で実践報告や実技講座などを行っていきたく思います。

きつと実践に  
役立つ部会で  
す。ぜひ参加し  
てください。

（共同研究者）



楽しいバスレク